北海道新型コロナウイルス感染症対策本部
第９８回本部会議　記録

日　時／令和４年３月２日（水）
１７：３０～１７：５２
場　所／本庁舎３階　テレビ会議室

【副本部長（小玉副知事）】
これより、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部の第98回本部会議を開催します。
まず、道内の感染状況等について、新型コロナウイルス感染症対策監から説明願います。

【原田新型コロナウイルス感染症対策監】
それでは、資料１をご覧ください。まず、主な指標の状況についてですが、昨日時点で、新規感染者数ですが、今週先週比で先週に引き続きまして、減少傾向が継続しておりますけれども、10万人当たりでは、札幌市389.8人、札幌市を除く地域が223.8人、全道286.1人と高い水準となっています。療養者数についても同様の傾向が見られております。病床使用率ですけれども、札幌市を除きます地域ではやや減少しておりますけれども、札幌市は44.9％と先週より増加しておりまして、全道でも37.7％と、先週比で増加しているという状況でございます。
続いて、地域における主な指標の状況です。多くの地域で先週に比べて感染者の減少の動きが見られるものの、引き続き、全道で多くの感染者が確認されているという状況です。病床使用率についてですけれども、道央、十勝圏で全道を上回っておりまして、その他の圏域では増減しながら横ばいの状況となってございます。
総評です。まず、医療提供体制ですが、全道の療養者数は２月12日以降、減少傾向が継続しています。一方で、病床使用率は増減し、高止まりの状況が続いています。特に札幌市を含む道央圏及び十勝圏では、病床使用率が全道を上回り、全体を押し上げているほか、その他の圏域におきましても、増減しながら、横ばいで推移している状況でございます。また、引き続き、全道各地において医療機関等での集団感染の確認が続いております。
感染状況です。全道の新規感染者数は、減少傾向が継続しておりますものの、全ての振興局管内で感染の確認が続いておりまして、直近１週間においても１日平均で２千人を超えているという状況です。年代別では30代以下、60代以上ともに減少しています。３月１日、道内におきまして、オミクロン株のＢＡ．２系統も感染事例が初めて確認されてございます。
今後の対策です。引き続き、３月６日までの間、まん延防止等重点措置の下、全道において、感染リスクが高まる場面や感染が広がっている場所における感染防止行動の徹底を図ってまいります。今後、就職や卒業・進学等に伴います人の移動や会食機会の増加など、感染リスクの高まる時期を迎えますことから、こうした場面における対策の徹底を呼びかけてまいります。道立衛生研究所等におけるゲノム解析の実施など、ＢＡ．２系統を含め、高い警戒感をもって、新たな変異株の動向の監視を継続してまいります。また、国の分科会ですが、まん延防止等重点措置について、新規感染者数が継続して減少しているか、低位の水準であること、また、病床使用率が概ね50％を下回っており下降傾向にあることといった解除の考え方を示してございます。本道においては、急拡大してきた新規感染者数は減少傾向となっておりますが、病床使用率の減少傾向が見られていないという状況です。

また、道内でもＢＡ．２系統の感染が初確認され、国の専門家によりますと、今後ＢＡ．２系統に置き換わることで新規感染者数が再度増加に転じることが懸念されておりまして、予断を許さない状況が続いております。こうした状況を踏まえますと、３月６日をもって、まん延防止等重点措置を終了できる状況とは言えず、新規感染者数をさらに減少させ、医療への負荷を着実に抑えていくため、国に対し、全道を対象といたしました重点措置の延長を要請していきたいと考えてございます。国において延長が決定された場合、延長の期間において、感染防止対策と社会経済活動の回復の両立に向け、次の取組を集中的に進めてまいります。具体的には、道の集団接種会場の活用を含め、市町村におけます接種や職域接種の支援によるワクチンの追加接種の加速化、また、病床の確保や経口治療薬を提供する医療機関の拡充など、必要な方を確実かつ適切に医療につなげていく体制の強化、さらには、抗原検査キットの流通状況を確認しつつ、無料検査登録事業所の拡充、あとには、新たな行動制限の緩和に向けた国の分科会の議論を踏まえました第三者認証の取得の促進に取り組んでまいりたいと考えてございます。

残りのスライドについて、何点か補足としてご説明いたしますと、まず、年代別の新規感染者数についてですけれども、30代以下及び60代以上の新規感染者ですけれども、それぞれ前の週と比較いたしますと減少しておりますけれども、先週と比べた減少の割合ですけれども、60代以上の方がやや大きくなっているという状況でございます。続いて、集団感染の発生状況ですけれども、医療施設及び福祉施設の集団感染の状況ですが、先週に比べまして、全道でやや減少という傾向が見られておりますけれども、引き続き、多くの集団感染が確認されてございます。

続いて、ワクチンの接種の関係ですけれども、まず道内では、２月28日現在、ＶＲＳベースで約94万人の方が３回目の接種を終えておりまして、全人口に対する接種率ですが、17.9％となってございます。追加接種の状況ですけれども、一つ目の○です。道直営の集団接種会場、北海道ワクチン接種センターでの予約状況ですけれども、現在予約を受け付けております３月５日から３月13日までの４日間の予約率は100％ということで、既に予定数に達したところでございます。また、３月19日から27日分の予約につきましては、今週土曜日、３月５日から開始予定でございまして、引き続き利用を促してまいりたいと考えてございます。二つ目の○です。３回目接種の加速化に向けまして、道といたしましては、北海道ワクチン接種センターにおけます接種、また、モデルナ社製ワクチンの積極的な活用を含めた交互接種への理解促進に努めますほか、特に、高齢者施設入所者及び従事者のうち希望される方への接種の早期完了、また、大雪等の影響を受けております札幌市をはじめとした市町村の取組を支援するなど、市町村と連携して対応してまいります。

その他のスライドでございますけれども、本日の説明に関しますデータを載せておりますので、のちほどご覧いただければと思います。

引き続き、お手元の資料２をご覧いただければと思います。先ほどの道内の感染状況等について、専門家の方々や市町村や関係団体にも事前にお知らせしているところでございます。

有識者、専門家や市町村、関係団体の皆様からは、概ね妥当であるというご意見をいただいてございますけれども、主な意見をご紹介いたしますと、まず、まん延防止等重点措置の延長に関しましては、国に要請を行うことについては、多くの方から、やむを得ないとのご意見をいただいているところでございます。また、その他のご意見でございますけれども、（１－⑤）にありますとおり、医療提供体制や感染状況については、改善傾向がいまだ不明確であり、継続的な対策と感染防止行動の徹底が求められる。とりわけ保健所機能の維持・強化をはかり、長期化するまん延に対応していくことが重要といったご意見。

また、（１－⑥）にありますけれども、これから人の異動の多い時期を迎え、感染対策の徹底を呼びかけることは大変重要といったご意見をいただいてございます。今後の取組の参考としてまいりたいと考えてございます。

私からの説明は以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、札幌市の感染状況につきまして、オブザーバー出席いただいております札幌市保健所の山口感染症担当部長から、説明をお願いいたします。

【山口札幌市感染症担当部長】

資料３に基づきまして、札幌市内の感染状況についてご説明いたします。それでは、最初のスライドをご覧ください。新規感染者の１週間の合計についてでありますが、昨日の３月１日の時点で7,646人、人口10万人当たりでは389.8人となっております。減少傾向にありますけれども、第５波と比べましても依然として高い水準となってございます。

それでは、次のスライドをご覧ください。札幌市内の入院患者数の状況でございますけれども、黄色い棒グラフの入院患者数ですが、昨日の時点で281人、重症患者数は赤の折れ線グラフですけれども、昨日時点で５人と新規感染者数は減ってきているのですけれども、入院患者数につきましては明らかな減少が見られていない状況であります。

それでは、最後のスライドをご覧ください。検査件数についてでありますが、直近の１週間では18,228件、陽性率は昨日時点で41.9％となってございます。

新規感染者数は減少に転じておりますけれども、札幌市内でも従来のオミクロン株よりも感染力が強いとされるＢＡ．２系統のオミクロン株が確認されたところであり、これに置き換わりが進むと、感染が再拡大する恐れがあることから、今後も警戒が必要な状況と考えております。また、医療機関や高齢者施設のクラスターの発生も続いており、重症化を防ぎ、感染を広げないためにも、ワクチン接種の促進と感染防止対策の継続が必要と考えております。

以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

ただいま説明のありましたとおり、まん延防止等重点措置の延長に向けて、国へ要請したいと考えておりますが、よろしいでしょうか。それでは、そのように決定いたします。

次に、各部・振興局から、順次発言をお願いします。

まず、石狩振興局長、お願いします。

【濱田石狩振興局長】

資料４に基づき説明をさせていただきます。初めに、札幌市を除く管内の感染状況についてでございますが、年明けから新規感染者数が増加傾向となり、１月15日に初めて100名を超え、それ以降は連日右肩上がりとなり、２月10日には過去最多となります463名の新規感染者数となりました。その後、２月下旬には若干減少し、日々の感染者数は依然200から300人台で推移しておりましたが、３月に入ってからは200名を切っているところでございます。しかし、大幅な減少とはなっておりませんので、引き続き高い警戒感を持って対応に当たっているところでございます。

次に振興局における対応でございますが、新規感染者の大幅な増加によりひっ迫しております保健所の体制強化といたしまして、振興局各課からの応援職員に加え、本庁や市町

村からも派遣をいただきまして、江別、千歳両保健所合わせて連日約80名を増員し、データ入力や検査調整、自宅療養をされている方々への健康観察などの業務にあたっているところでございます。今回は応援の人数だけではなく、これまで８週間に及ぶ長丁場となっておりますことから、この間の関係機関からのご協力にあらためて感謝を申し上げる次第であります。ありがとうございます。

市町村との連携におきましては、首長の皆様と常日ごろから感染状況やワクチン接種などについて、情報交換や危機感の共有を図っておりますとともに、感染拡大防止に向けました取組について働きかけを行ってきたところでございます。また、住民の皆様に対しても、ＳＮＳやホームページ、広報車による注意喚起などを行うほか、振興局の若手職員が独自に学生さん向けの啓発用チラシを作成し、管内27の大学と短大に配布をするなど、感染防止対策の徹底を呼びかけてきております。

一方、高齢者施設における集団感染でございますが、１月以降、相次ぐ集団感染の発生により、管内全ての市町村に現地支援対策本部を設置することとなり、Ｗｅｂ会議による情報共有を図りながら、施設の運営継続に向けまして、看護師や介護職員の派遣、防護服やマスクなどの衛生用品の提供など支援を行ってきたところでございまして、２月末までに半数以上が通常の運営に戻り、現在は９つの施設に支援を継続しているところでございます。

さらに飲食店などに対しましては、第三者認証の取得促進に向けた呼びかけを継続して実施するとともに、委託事業者による調査結果を踏まえ、電話がけや現地訪問などにより営業状況の確認を行っているところでございます。

石狩振興局といたしましては、住民の皆様の安心安全の確保に向け、保健所の体制を確保しながら、市町村などとの一層緊密な連携、情報共有を図りまして、１日でも早く感染者の確実な減少となりますよう、引き続き、感染拡大防止の徹底に努めてまいる考えでございます。

以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、留萌振興局長、お願いします。

【宇野留萌振興局長】

資料５をご覧ください。感染状況についてでございますが、他の地域に比べますと、数は少ないものの、年明け以降、管内でも感染者が急増いたしまして、１月の感染者が過去最多を更新し、２月に入り感染者数は落ち着きつつありますが、依然、学校や家庭などを中心に断続的に感染が続いております。傾向といたしましては、比較的軽症で自宅療養の患者が多いものの、管内の医療体制が脆弱なことに加えまして、子供から家庭への感染や基礎疾患を抱える高齢者の感染例が多いことなどを踏まえまして、引き続き警戒が必要であると考えているところでございます。

次に取組状況ですけれども、前回も報告させていただきましたが、保健所業務の支援のために１月から庁内各課が応援職員による支援班を設置しまして、職員が一丸となって、継続した取組を行っているところでございます。また、今回の保健所の業務の重点化に当たりましては、関係者の方々から多くの質問が寄せられました積極的疫学調査の変更点などにつきましては、各市町村を直接訪問し丁寧な説明を行うとともに、各種団体や企業に対しましても、変更点の周知を徹底してきたところでございます。あわせまして、保健所業務がひっ迫した際には、人的支援や公共施設の一時休止などについて、協力をいただく

ようお願いして参りました。
感染防止対策の取組といたしましては、業務継続の観点から、防災など一部業務においては、分室を設置したほか分散勤務を行ってまいりました。また、先行配布されたスマートフォンを活用して、庁内の会議のオンライン化などを進めているところでございます。また、会議室や食堂など職員などが集まる場所にはＣＯ２モニターを設置するなど、職員の感染リスクの低減に努めさせていただいております。
また、冬休みが明けた学校に関しましては、教育局長との連名によりメッセージを発出したほか、市町村との共同メッセージも発生させていただいております。加えまして、管内商工会議所、飲食店を振興局幹部が戸別訪問させていただきまして、第三者認証の取得について、引き続き呼びかけを行っております。
このほか、ワクチン接種の促進に向けた取組といたしましては、これまでの広報に加え、ＳＮＳ、地元新聞社、ＦＭなどの活用を強化いたしまして、感染拡大の防止に取り組んでいるところでありまして、３回目のワクチン接種にも積極的に呼びかけを行っております。
留萌といたしましては、３月には人の移動が活発になってくる時期でありますことから、感染を拡大させないように市町村と連携しながら、感染対策に応じた取組を全力で進めてまいりたいと考えております。
以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】
この他、各部、振興局からご発言はございませんか。なければ、本部長から発言をお願いいたします。

【本部長（知事）】
まん延防止等重点措置の期限まで、残り４日となりました。新規感染者数は、これまで急拡大してきたところでありますが、この新規感染者数はピークを越え、その後、減少傾向が続いています。これは、これまでの道民の皆様、事業者の方々のご理解、ご協力によるものであります。心から感謝を申し上げます。
新規感染者数が減少に転じたことによりまして、病床の負荷が急速に高まるという状況にはないものの、医療施設などにおける集団感染は、引き続き、全道で確認をされています。病床使用率については、高止まりの状況が継続しているというところであります。
また、昨日、札幌市内において、これまでのオミクロン株より感染力が強いとされるＢＡ．２系統の感染事例が、初めて確認をされたところであります。国の専門家からは、このＢＡ．２系統の置き換わりが進むことで、新規感染者数が再度増加に転じる懸念も示されています。
こうした道内の状況を踏まえますと、３月６日をもって、重点措置を終了できる状況とは言えず、まん延防止等重点措置の延長について、国へ要請を行うことを決定いたしました。予断を許さない状況が続いております。新規感染者数をさらに減少させて、医療の負荷を着実に抑えていくため、大変重要な局面にあることについて、あらためて、皆様のご理解とご協力について、お願いを申し上げます。
今後、国において、この重点措置の検討、これが行われることになります。延長された場合には、市町村、関係団体との連携を強化した取組が重要となります。特にワクチンの接種についてですが、個人の重症化予防、発症予防に加えて、周囲の方々への感染を防ぐ効果、これも期待できるところであります。北海道ワクチン接種センターの活用も含め、引き続き、重症化リスクの高い高齢者の方々への接種を進めるとともに、全国に比べて本

道の接種が進んでいないということを踏まえ、接種の一層の加速化に向けて、特に、接種率が低い市町村などにおける接種の促進に、市町村と連携して取り組んでいただくように指示をいたします。

また、病床の確保、経口治療薬を提供する医療機関の拡充など、必要な方を確実かつ適切に医療につなげていく体制の強化を図るとともに、無料検査登録事業所の拡充、こちらにも取り組んでください。さらには、新たな行動制限の緩和に向けた国の分科会の議論、これが始まっています。各振興局においても、こうした動きをとらえ、市町村や関係団体との連携を密にし、第三者認証の取得促進に取り組むなど、まん延防止等重点措置の延長、これが決定された、そういった状況を踏まえた、この感染防止対策と社会経済活動の回復の両立に向けた取組、これを集中的に進めていく、この取組を進めて行くように指示をいたします。

私からは以上です

【副本部長（小玉副知事）】

本部長から指示のあったことにつきまして、各本部員は必要な対応をお願いいたします。

以上をもって、新型コロナウイルス感染症対策本部の第98回本部会議を終了いたします。

（了）